

宛先:

Mr Valdis Dombrovskis (欧州委員会上級副委員長)

Mr Frans Timmermans (欧州委員会上級副委員長)

Ms Kadri Simson (エネルギー担当委員)

2020年4月24日

2050年までのカーボンフリー電力システムの支柱の確保 —原子力の適時かつ公正な評価の要請

私たちは、2050年までに気候の中立性を達成するという目標を強く支持する、学界と市民社会を代表する科学者と環境保護活動家のグループである。気候変動は、今日世界が直面している最大の課題の1つであり、私たちの後を追う人々により良い地球を残すことは、私たちの遺産であるべきだと確信している。私たちが今行動しなければ、世界的感染症流行、自然災害、移民、環境への不可逆的な変化など、将来さらに多くの課題に直面する可能性が非常に高い。これは逆に、世界経済と人間社会全体の両方に莫大な財政的・社会的コストを生み出すことになる。それが、私たちが2018年長期戦略「すべての人のためのクリーン・プラネット」と2019年欧州グリーンディールの両方を歓迎し、受け入れた理由である。

我々は、金融セクターがグリーンな移行を可能にするために提案されたイニシアティブと手段を歓迎する。

持続可能な移行は政治的最優先事項と考えられるべきであるが、我々は、それが大きな経済的コストを伴うことを認識する。したがって、我々は、将来の世代のために地球を保全することを確保しつつ、我々の経済及び気候変動の野望を可能にする持続可能な財政行動計画を強く支持する。タクソノミー規則は、どの活動や技術が持続可能性の目標に貢献しているかについての信頼できる情報を投資家に提供すべきである。それは、投資家が金融を正しい方向に導くための重要なツールであり、慎重かつ思慮深く設計される必要がある。

エネルギー部門は大きな変革に直面している

温室効果ガス総排出量に占めるエネルギー部門の割合は依然として最大である(Eurostatデータに基づく、2017年は28.2%)。気候の中立性を達成するために、この部門は必然的に大きな変化を経験しなければならない。我々は、原子力発電が再生可能エネルギーと共に、カーボンフリーの欧州電力システムのバックボーンを形成することを認めている「すべての人のためのクリーン・プラネット」コミュニケーションの結論に完全に同意する。いずれも欧州の産業や家庭に低炭素エネルギーを提供し、欧州市民のために大気質を大幅に改善することができる。言い換えれば、エネルギー転換を可能にする技術はすでに存在しており、現在も機能している。

原子力は、気候中立的な欧州における安定性の要素であるべきである。

気候変動と闘い、地球の気温上昇を(理想的には)1.5°C以下に抑えるために、私たちは今行動しなければならない。多くの欧州諸国は、化石燃料の段階的廃止を可能な限り早期に決定しており、他の国々も現在、それに参加するための戦略を策定中である。電化は、クリーンエネルギーへの移行を可能にする重要な要素であり、電力需要の増大をもたらすであろう。これは、「エネルギー効率第一原則」の広範な適用が、増加した需要の一部を相殺しても事実である。EUは、クリーンで手頃な価格で信頼性の高い電力の需要に見合うだけの十分な発電能力を持たなければならない。

急速に発展したとしても、再生可能エネルギーは必要な発電量を供給することはできないであろう。再生可能エネルギー、需要側ソリューション、柔軟性のみで構築された電力システムは、重大なシステム安定性の問題を引き起こす。さらに、EU全域で大規模な送電網の再編と敷設が必要となる。

従って、我々は、欧州委員会及び全てのEU政策決定者に対し、「Clean Planet for All」長期戦略によって設定された道筋を採用し、再生可能エネルギー及び原子力での「バックボーンの提供」による脱炭素エネルギーシステムを構築するよう求める。原子力は、欧州の市民や産業界のニーズ

を満たすために、低炭素で汚染ゼロの信頼できる電力を供給する。しかし、これを効率的に、効果的に、そして少なくとも消費者にとってコストをかけずに実現するためには、原子力は気候変動との闘いにおける解決策の重要な一部であると、原子力の将来的な役割について投資家に明確なシグナルを送る、予測可能な政策枠組みを持つことが不可欠である。

我々は、EUタクソミーの中で根拠に基づく原子力発電の評価を求める。

タクソミーに関するEU技術専門家グループ (TEG) は、原子力が気候緩和に実質的に寄与しているという明確な証拠があると結論づけた。それにもかかわらず、TEGはこの時点で、他の環境目的に対する潜在的な重大な損害に関して「原子力に関する証拠は複雑で、タクソミーの文脈で評価するのがより難しい」と結論付けた。さらに広範な技術的作業を行うよう勧告した。

原子力をめぐる議論は主に政治的で感情的なものであることが多いため、原子力に関する「重大な害を及ぼさない」(DNSH) 基準の評価は、厳密に技術的かつ証拠に基づいて、能力のある専門家によって行われることが不可欠である。

一部の反原子力団体はすでに、タクソミーの下での持続可能な活動のリストから原子力を除外することを要求している。主張されている議論のほとんどは科学的証拠に基づいていない。したがって、科学者や研究者として、原子力部門の信用を失墜させるために使われたいくつかの意見を明確にする必要があると感じている。

—原子力は現在、EUにおける低炭素発電の47%以上を供給している。原子力はまた、欧州において化石燃料と比較して毎年5億トンのCO₂排出量を削減しており、これは英国やフランスだけの排出量を上回る。

—原子力によるライフサイクル排出は、再生可能エネルギー技術によるものと比べて有利である。気候変動に関する政府間パネル (IPCC) によると、原子力の排出量は風力と同等で、太陽光の4倍低い12 g-CO₂/kWhとなる。原子力に関するIPCCの分析には、ウラン採掘、濃縮、燃料製造、プラント建設、運転、廃止措置、長期廃棄物管理を含む全ライフサイクルが含まれる。

—広く認められている均等化発電単価 (LCOE) の数値を分析すると、原子力は他の低炭素電源と競争力があることが明らかになる。ここでも、IPCCの数字に基づく、原子力のLCOEは、平均して太陽光または洋上風力の半分であり、陸上風力に匹敵する。

—さらに、均等化発電単価は、安定した信頼できる電力供給の価値を考慮していない。原子力発電は天候に左右されず、24時間365日、産業、運輸、病院、家庭、企業に信頼性の高い電力を供給する。現在のCOVID-19危機は、危機の時期には不足が価値を定義するという明確な証拠を提供した。政策決定に際しては、信頼できる電力の確保が常に不可欠である。

—強力で前向きな規制の枠組みが整っていれば、新規原子力プロジェクトの建設時間とコストを削減する大きな可能性がある。原子力サプライチェーンの近代化と調和化に関する最近のプロジェクトは、供給者に対する合理化された要求事項が、連続した建設の利点と相まって、コストを削減し、安全を維持しつつ、新設の速度を急速に向上させることができることを示している。

—原子力は柔軟性があり、再生可能エネルギーの普及を妨げない。マサチューセッツ工科大学 (MIT) による最近の研究結果は、原子力発電所を柔軟に運転することが、全体の電力コストを削減し、電力システムにおける炭素排出を削減できることを示した。小型モジュール型原子炉 (SMR) の可能性を開発し商業化することも、原子炉をよりスケラブルにし、潜在的にはコストを削減し、建設時間を短縮することに貢献することができる。

—原子力の柔軟な運転は、風力と太陽光をグリッドに追加するのに役立つ。原子力と再生可能エネルギーは気候変動と戦うパートナーであるべきだが、残念なことに、一部の反原子力活動家は障壁を作り、原子力が再生可能エネルギーの普及を妨げるという説を支持している。気候変動と戦うための行動には時間がほとんどない。したがって、気候変動との闘いに貢献できるすべての低炭素・

クリーン技術は、貢献することを許され、解決策の一部とならなければならない。

—原子力発電所は海面上昇や洪水から守られている。国際原子力機関（IAEA）の世界的安全基準は、事業者に海面上昇から生じるリスクを考慮することを求めている。また、重要なことは、海面水位が2100年までに1 m上昇するというIPCCのモデルによる最悪のシナリオであっても、既存の原子力発電所はすでに廃炉となっており、新規の発電所は、設計や建設時の考慮によりいかなる課題にも容易に適応できることである。

—IAEAとEUの規制枠組みは、原子力発電所が最高の安全基準を遵守することを保証している。この枠組みは、放射性廃棄物の管理を含む原子力ライフサイクル全体に適用され、放射性廃棄物が長期的に安全に管理されることを確実にする。世界中ですでに稼働している中間貯蔵ソリューションは、管轄当局からライセンスを受けており、最高の安全体制に準拠し、透明性のある方法で開発され、厳格な環境影響評価を受けている。

—同時に、原子力産業は、規制当局と協力して、放射性廃棄物の安全で長期的な処分のための施設を特定し、場合によってはすでに施設を運営している。欧州委員会は最近、フィンランド、フランス、スウェーデンが高レベル廃棄物の長期貯蔵に関する解決策を進めていることを認めた。

原子力は、欧州の市民や産業にとって重要かつ確立された電源であり、エネルギーシステムの安定性にとって極めて重要である。現行の厳格な規制枠組みは、原子力部門の「重大な害を及ぼさない」原則を明確化し、原子力発電所が、廃止措置や使用済燃料管理も含めて、安全かつ持続可能な方法で運転されることを保証している。

気候変動に関する政府間パネルや国際エネルギー機関を含む国際機関は、気候変動との闘いにおける原子力の役割を認識しており、それらの分析と結論は、原子力が安全で、競争力があり、持続可能であるという説得力のある証拠を提供している。また、欧州委員会自身も、再生可能エネルギーとともに原子力が気候中立的なエネルギーシステムの根幹をなすべきであると認識している。

上記の理由により、我々は、委員会に対し、TEG報告書をフォローアップし、DNSHクライテリアに関する原子力発電の「公正な」かつ時宜を得た専門家による評価を可能にすることを求める。この評価は科学的根拠に基づいていなければならない、いかなる政治的またはイデオロギー的意図によっても影響されてはならない。気候変動との闘いは最も緊急性の高い問題であり、すべての低炭素エネルギー源が貢献できるようにしなければならない、最終的な持続可能な投資に関するタクソノミーはこれらの点を尊重しなければならない。

コピー宛先:

Ms Charlina Vitcheva , Acting Director General, JRC

Mr Patrick Anthony Child, Deputy Director-General, DG RTD

Mr Mario Nava, Director, Horizontal Policies, DG FISMA;

Members of the Member States Expert Group on the EU Taxonomy of Sustainable Finance



Pole Energie



UNIVERSITY OF CHEMISTRY AND TECHNOLOGY PRAGUE



SLOVAK UNIVERSITY OF TECHNOLOGY IN BRATISLAVA



UNIVERSIDAD POLITÉCNICA DE MADRID



UNIVERSITY OF ŽILINA



Technical Research Centre of Finland





Societatea Română de Radioprotecție



Institute for Solid-State Nuclear Physics



Bulgarian nuclear society

DUTCH YOUNG GENERATION



SKS SVENSKES KÄRNTEKNISKA SÄLLSKAP SWEDISH NUCLEAR SOCIETY



TECHNOLOGY PLATFORM

TPUE SUSTAINABLE ENERGY FOR THE UK

ENVS

EUROPEAN NUCLEAR SOCIETY



WE ARE THE NEXT GENERATION



SUOMEN ATOMITERILLINEN SEURA - ATOMITEKNISKA SÄLLSKAPET I FINLAND / FINNISH NUCLEAR SOCIETY

JADERNÍ VETERÁNI



NUCLEAR VETERANS



Društvo geledskih strojarkopov Slovenije Nuclear Society of Slovenia



Young Generation Network



bright new world

WiN Czech Women in Nuclear

WiN Women in Nuclear



SNUS



Schweizerische Gesellschaft der Kernfachleute Swiss Nuclear Society Young Generation



SNES SOCIEDAD NUCLEAR ESPAÑOLA

WiN FRANCE Le Nucléaire au Féminin



OBČIANSKA INFORMAČNÁ KOMISIA MOCHOVCE



SEREN - POLSKA

CLEARPATH

Climate Science, Awareness and Solutions



Les Entretiens Européens d'Européens d'Européens

ENERGY FOR HUMANITY



KTG

Faszination Kerntechnik

SVENSKA EKOMODERNISTERNA



Romania



IZE



NUCLEAR AMRC



Energoregion



Environmentals for



NUCLEAR 21st FLASHING FORUM LEIDING



Stichting KernVisie

NUCLEAR MATTERS



ENERGETICKE TREBIČSKO

The Finnish Greens for Science and Technology



WORLD ENERGY COUNCIL COMITETUL NAȚIONAL ROMÂN

THINK ATOM think deep decarbonization

UARGA L'expertise d'anciens du nucléaire

Voices of Nuclear

